

## 資料2

## 第2回

あんジョイプラン11(第9次安城市高齢者福祉計画・  
第10期安城市介護保険事業計画・認知症基本推進計  
画)策定委員会

## 議題

- 1 懇話会開催状況について(報告)
- 2 高齢者等実態調査(アンケート調査)について(報告)



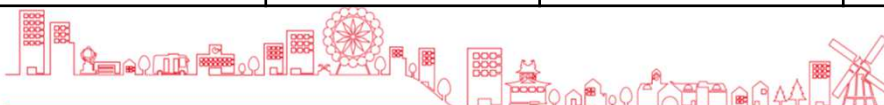
## 議題1

# 懇話会開催状況について(報告)



# 1 開催状況

日時	場所	参加者	テーマ	趣旨
令和8年 2月24日(火) 10:00~	総合福祉センター	老人クラブ連合会	「健康で、孤立せず暮らせる地域づくりを考える」	老人クラブの活動の現状やフレイル予防・孤立に関すること等を聞き取り、だれも孤立することなく、健康で安心して暮らせる地域づくりを考える。
3月4日(水) 13:30~	安城市役所 第36会議室	グループホーム部会 (グループホーム事業者代表)	「サービス現場で感じる地域の課題について」	サービス提供を通じて感じる地域の課題や、サービス多様化に伴う現場の課題を整理し、解決策を検討する。
3月6日(金) 12:00~	Ingハウスここから(おれんじドアここから)	若年性認知症の方ご本人	「認知症にやさしいまちづくり」	若年性認知症の方が感じる日常生活での困難や支援とのギャップを聞き取り、支援のあり方や暮らしやすい地域づくりを考える。
3月12日(木) 10:00~	安城市役所 第42会議室	認知症地域支援部会委員	「認知症の人への支援を充実するために」	支援の現状、認知症の方との関わり方を聞き取り、今後の支援体制等における安城市の課題等を整理する。
3月24日(火) 10:30~	安城市役所 第24会議室	施設部会 (特別養護老人ホーム、老人保健施設代表)	「サービス現場で感じる地域の課題について」	サービス提供を通じて感じる地域課題や、サービス多様化に伴う現場の課題を整理し、解決策を検討する。



## 2 懇話会意見

### ◆ 老人クラブ連合会

- ラジオ体操、サロン活動などを実施しているが、参加するための移動手段がないという問題もあり、参加する人が同じという現状がある。
- 小学校からの要請で、昔の遊びや野菜作りなどを小学生に教える機会がある。そういう機会もフレイル予防になるのではないか。
- 友愛訪問活動をしているが、友愛訪問は要らないと言う人がいる。一方で、民生委員が来るのは嫌だが、老人クラブの人ならいいという場合もある。

### ◆ 認知症になったご本人

- 諸々の取組が遅い、支援機関の連携が不足していると感じる。安心できる支援や対応を考えてほしい。
- 認知症カフェも参加しやすいとは感じない。一歩外に出ると、偏見の中で生きているのが現状。雰囲気づくりが大切だと思う。
- 利用者の立場に立ち、自分ごととして捉えて支援してほしい。



## ◆ 認知症地域支援部会

- 家族の認識が間違っているような場合や、受診していないケース、介護サービスに全くつながっていないケースなどがあり、支援の難しさを感じる。
- 認知症になった人が落ち込む背景には、認知症への偏見があると思う。まずは偏見をなくす啓発が必要。
- 権利擁護については、つなげても進まないケースもあるので、弁護士や司法書士等も含めて体制が充実すると良い。

## ◆ グループホーム部会・施設部会

- 看取りまで行うグループホームが多くなり、現場は特別養護老人ホームなどと変わらない状況だが、重度者を介護するための設備が整っていない。
- 人材不足のため、無資格・未経験者の求職が増えているが、人材不足の現場で人材育成を同時進行するのは、とても負担が大きく困難。
- サービスが多様化すればするほど、利用者の満足度が得られないというジレンマがある。また、多様化に伴い、要する費用も多くなるという傾向がある。



## 議題2

# 高齢者等実態調査(アンケート調査)について



### 1 調査の目的

市民の生活や高齢者介護の状況、福祉への意向、事業者における課題等を把握し、「あんジョイプラン11（第9次安城市高齢者福祉計画・第10期安城市介護保険事業計画）」策定のための基礎資料とするため、実施しました。



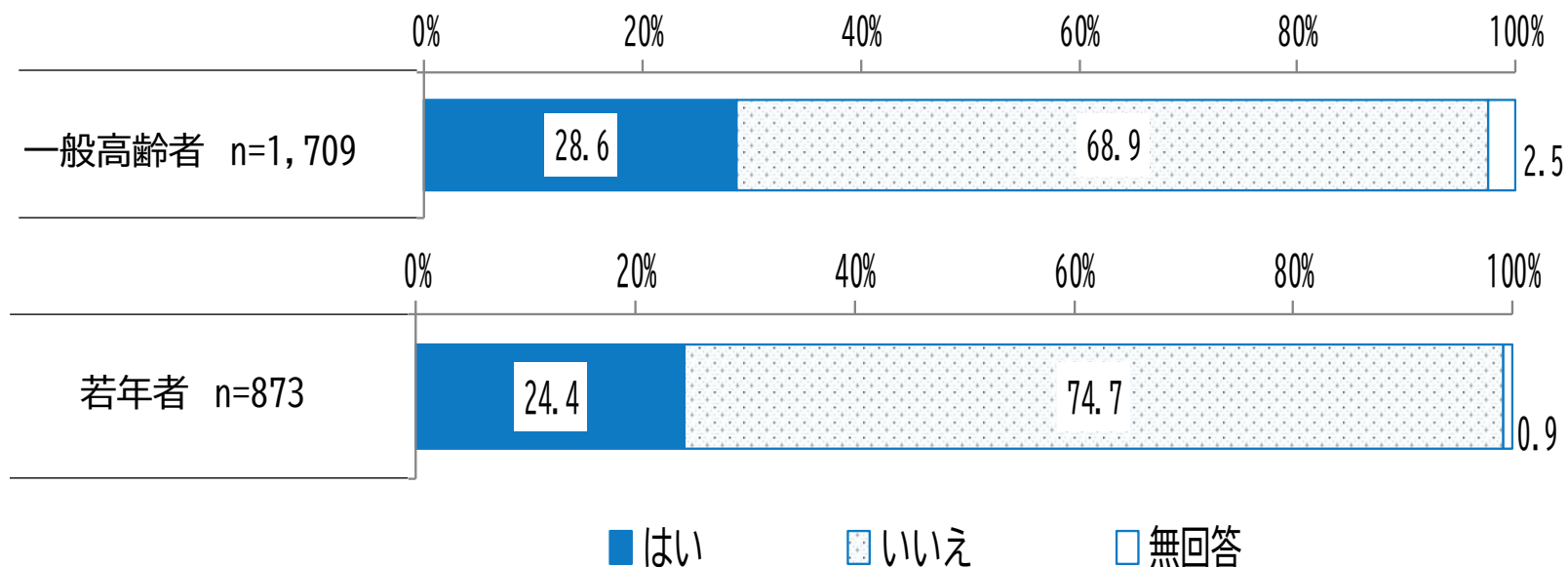
## 2 アンケート概要

区分	対象者	調査方法	配布数		有効回収数 (有効回収率)
一般高齢者調査 (介護予防・日常生活圏 域ニーズ調査)	要介護認定を受けていない65 歳以上の市民(要支援認定者 を含む)	郵送調査 (Webを併用)	2,700人		1,709 (63.3%)
在宅介護者調査 (在宅介護実態調査)	市内の要介護認定者(要支援認 定者、施設入所者を除く)		1,800人		898 (49.9%)
若年者調査	要支援・要介護認定を受けてい ない40歳から64歳までの市 民		2,000人		873 (43.7%)
在宅生活改善調査	市内の居宅介護支援事業所、小 規模多機能型居宅介護事業所、 看護小規模多機能型介護事業 所及び所属介護支援専門員		事業所	41事業所	28 (68.3%)
			介護支援専門員	148人	86 (58.1%)
居所変更実態調査	市内の施設・居住系サービス事 業所		44事業所		21 (47.7%)
介護人材実態調査	市内の施設・居住系サービス、 通所系・短期系サービス、訪問 系を含むサービス各事業所及び 所属訪問系職員		施設・通所系事 業所	106事業所	52 (49.1%)
			訪問系事業所	39事業所	27 (69.2%)
			訪問系職員	567人	220 (36.8%)

# ※質問の一例

## ■ 認知症について(一般高齢者調査、若年者調査)

認知症に関する相談窓口を知っていますか。



認知症に関する相談窓口の認知度は、一般高齢者が28.6%、若年者では24.4%となっています。



### 3 総括

アンケートの結果から、安城市の高齢者施策・介護保険事業には、以下のような課題があると考えられます。

- 介護予防・外出・社会参加は一定の改善がみられる一方、参加は固定化・二極化。
- 在宅生活を支える「生活支援」「移動支援」「家族介護者支援」が追いついていない。
- 軽度者段階から在宅生活が困難化している。
- 認知症に対する不安と家族依存構造が強い。
- 看取り・医療ニーズの高まりにより、施設に求められる機能と役割が変化。
- 介護人材の量的確保よりも「分野間偏在・高齢化・定着」が深刻化。



高齢者数の増加とともに、「支え手の脆弱化」「家族支援機能の限界」「生活支援ニーズの顕在化」が同時進行していることを示している。



## ◆課題から求められる施策

次期計画では「介護サービスの量の確保」だけでなく「地域・家族・本人の準備力を底上げする施策転換」が求められます。

例えば…

- 在宅・住まい・施設の連続性の確保
- 人生の最終段階を見据えた支援の標準化
- 介護人材の分野横断的マネジメント
- 軽度期・未然期からの生活支援
- 家族に依存しすぎない認知症支援

高齢者本人の暮らしを軸に「サービス・人材・地域」を再編する計画として位置づける

